

第86回女川原子力発電所環境調査測定技術会会議録

開催日時:平成14年5月10日午後1時30分から

開催場所:パレス宮城野2階錦萩の間

出席委員数:20名

会議内容:

1 開会

司会:ただ今から、第86回女川原子力発電所環境調査測定技術会を開催いたします。

会議に先立ちまして、本会議には委員数28名のところ、20名の御出席を頂いておりますので、本会は有効に成立しておりますことを御報告致します。

それでは、遠藤環境生活部長からあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(遠藤環境生活部長あいさつ)

3 新委員の紹介

司会:ありがとうございました。ここで、人事異動により今回新たに委員となりました方々をご紹介致します。

東北電力(株)原子力部原子力安全課長 本田一明委員でございます。

宮城県環境生活部長 遠藤正明委員でございます。

宮城県産業経済部漁港漁場整備課長 五十嵐輝夫委員でございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

4 会長・副会長の互選

司会： この度の委員の異動によりまして、本技術会の会長と副会長1名が変わりましたので、会長と副会長1名の選出をお願いしたいと思います。それでは、技術会規程第4条第3項により選出を行うための議長を副会長の高橋環境生活部次長にお願いしたいと存じますが、如何でしょうか。

(異議なしの声)

高橋副会長： 技術会規程第4条第1項により、会長、副会長は委員の互選により定めることになっております。どなたか御推薦をお願いしたいと思います。

木村委員： 従来と同じように、会長に環境生活部長、副会長に漁港漁場整備課長をお願いしてはいかがと存じますが、御審議をお願いします。

高橋副会長： ただ今、会長には遠藤環境生活部長、副会長に五十嵐漁港漁場整備課長でいかがとの御発言がございましたが、いかがでございましょうか。

(異議なしの声)

高橋副会長： 異議なしということでございますので、会長には遠藤環境生活部長、副会長には五十嵐漁港漁場整備課長と決定させていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、これで議長を終わらせていただきます。ありがとうございました。

司会： ありがとうございました。それでは、遠藤会長に議長をお願いし議事に入らせていただきます。

5 議 事 議長:遠藤環境生活部長

議長： それでは、どうぞよろしく願いいたします。

さっそく議事に入らせていただきます。評価事項の「イ」平成13年度第4四半期の「環境放射能調査結果」について説明願います。

(1) 評価事項

イ 女川原子力発電所環境放射能調査結果(平成13年度第4四半期報告)について

(嵯峨委員から平成13年度第4四半期の環境放射能調査結果について説明)

議長： ありがとうございます。これまでの説明につきまして御質問、御意見がございましたらよろしく願いたいします。

鴻野委員： 降水量と空間ガンマ線量率のグラフがありましたが、雨量が多くなると、ガンマ線量率が多くなるということを行うのであれば、地点によっては雨量が増えてもかならずしも線量率が上がっていませんし、また、ウォッシュアウトとかレインアウトというものを説明するのであれば、1月9日一日分ではなくて、二日に渡っていると思われるので、その両方の合計で議論したほうがよいと思うのですが。

嵯峨委員： 説明不足のところがあると思いますが、このグラフは一つの例として示したもので、この他にも1月21日とか、顕著なデータを持っています。それで、各局ごとに降水量がちがうわけですが、平均のバックグラウンドの線量率に対しての雨による増加分ということで、積分値です。いろいろな解析がありますが、雨によって増えているということをおうとしたものです。

鴻野委員： 降り始めと降り終わり、時間によって雨に含まれているガンマ線の量は、変化がないのでしょうか。最初に多くて後になると減っている感じがするのですがどうでしょうか。

嵯峨委員： 雨量に対する線量率は解っているのですが、降り始めと降り終わりというような時間ごとのデータはなかなか統計解析できません。本来詳しくやるべきですが、難しい状況です。

鴻野委員： 8日と9日は二日に渡ってますので、一日目と二日目はどう違うのかといった興味があります。

本田委員： 線量率の上昇傾向を見ますと、降り始めに急激に上昇し、その後徐々に低下傾向にありますので、一般的に降り始めにラドン娘核種が多いようです。また、先ほどのグラフの縦軸は、従来から積算降雨増分として整理してきた量であり、雨の降り始めから終わりまでの線量の増分を加えており、日単位には分けておりません。

嵯峨委員： 雨に関しては、線量率濃度の高い雨と低い雨があり、地点によっても異なるので、一概には言えません。そのため、総量としてのデータを示しています。気象配置も見まして、雨量との相関はあると考えられますが、降り始め、降り終わりかどうかまでは判断できていません。

議長： 他に何かございますか。

岩崎委員： モニタリングポスト6番の最高が1月20日で110となっていますが、他のモニタリングポストと比べて大きな値です。これはどのように解釈しますか。

本田委員： ナンバー6は周辺に斜面がありまして、普段から線量率が高めです。雨が降りますと、天然の核種が集中して多くなる傾向があります。

岩崎委員： そういうことだと思いますが、110というのは目に付く数値なので、事前に説明していただければよいと考えます。

議長： 他になければ次に移りたいと思います。「ロ」の平成12年度第4四半期の「温排水調査結果」について説明願います。

ロ 女川原子力発電所温排水調査結果(平成13年度第4四半期報告)について

(小畑委員から平成13年度第4四半期の温排水調査結果について説明)

議長： ありがとうございます。それでは、ただ今の説明につきまして御質問なり、御意見がございましたらよろしく願います。

なければ次にまいります。評価事項として他に何かございますか。

嵯峨委員： モニタリングステーションにおける空間ガンマ線線量率の評価について説明したいと思います。

ロ モニタリングステーションにおける空間ガンマ線線量率の評価について

(嵯峨委員からモニタリングステーションにおける空間ガンマ線線量率の評価について説明)

議長： ありがとうございます。それでは、ただ今の説明につきまして御質問なり、御意見がございましたらよろしく願います。

本田委員： もともとこの指標線量率というのは、調査レベルの設定の一つの手法で、要するに環境の線量率の変動したときに、それがどこに起因しているか調べるきっかけということです。指標線量率に変動があったときに、それが発電所に起因するものか、人工のものか、そういったことを判断するのも、もう少し試

験が必要だと思われます。

評価レベルでこの指標線量率を活用するのは結構だと思いますが、直ちに発電所影響の有無を判断するのはいかがなものでしょうか。もう少しデータの蓄積が必要ではないでしょうか。

現在では、発電所の排気筒モニタ、モニタリングポストデータもホームページで公開されており、発電所に起因するか否かのチェックを必ずしも指標線量率に頼らなくてもよいのではないのでしょうか。

嵯峨委員： 原子力センターでは21年間測定をやっておりまして、指標線量率を活用し、判断してきており、これを実績と考えています。これまではモニタリングステーションのデータがすべてそろわなかったのですが、13年度のデータから東北電力分も加わり、足並みがそろったので、指標線量率を出したものです。

放射線量率については発電所の状況、この指標線量率、気象配置、モニタリングポストなど総合的にみて判断しております。指標線量率については最も重要視しているところで、平成13年度のデータから口頭説明し評価いただいているところでもあり、これまでの実績からぜひとも記載に加えたいと考えています。

本田委員： 御努力は理解します。たとえば調査レベルですが、平常時の変動幅に収まっているというのを見るのではなくて、それを越えたときに要因を判断するもので、環境の放射線量率はもともとかなり変動するものです。指標線量率をどの程度勘案しているのかわかりませんが、あまり過大視するのはどうでしょうか。

嵯峨委員： 県民の目線でみたときに理解してもらうために、計数化の方向に進んでおりまして、指標線量率と併せてダイナミックスペクトル、そういうものがわかりやすいのではないかと考えます。指標線量率は大きな要因ですが、それだけではなく、発電所の状況やモニタリングポストなどを総合的にとらえています。ただ、放射線の増加が人工由来か天然由来かを示すには、やはり指標線量率が住民にわかりやすいと思います。

長谷川委員： 本田委員の意見も理解できますが、総合的にとらえた場合、指標線量率の語句を出すのは適当だと思います。

本田委員： 指標線量率はいくまでひとつの指標であって、発電所の影響を判断するのは最終的にはスペクトルではないのでしょうか。また、指標線量率の変動原因についても未知のところが多いと思いますが。

嵯峨委員： 繰り返しますが、線量率の確認をし、気象条件を勘案し、人工由来の放射能か天然由来かを極めていく、最終的にはガンマ線のスペクトルを確認する。それで人工核種が出れば、他県に問い合わせたり、現地調査を行うなど総合的にやっていくことにしております。このような流れの中で指標線量率を時

系列的にみておりました、この評価システムはすでに21年間実績があるということです。

岩崎委員： 今回の指標線量率に関する表現は、いままでやってきたことを言葉として書いたもので、問題はないと思います。本田委員の意見のように、具体的な活用については協議する必要があると考えますので、別に討論の場を設けていただき意見交換してはいかがでしょうか。このたびは、総合的にということで、記載するのは差し支えないと思います。

本田委員： 了解しました。

議長： その他、何かございませんでしょうか。

それでは、ないようでございますので、平成14年の1月から3月までの環境放射能と温排水調査結果の評価につきましては、本日の技術会で御了承を頂いたものとしたしたいと思います、よろしいでしょうか。

(異議なし)

議長： それでは、これをもって御評価を頂いたものとしたします。

議長： 次に、報告事項に移らせていただきます。報告事項の「イ」女川原子力発電所2号機トラブルなどについて説明願います

(2) 報告事項

イ 女川原子力発電所2号機トラブルなどについて

(東北電力(株)から女川原子力発電所2号機トラブルなどについて説明)

議長： ありがとうございます。何か御質問がございましたらよろしくお願いたします。

浅川委員： 汚染があったのに被ばくがなかったというのはどういうことでしょうか。

東北電力： 検出されるレベルの被ばくがなかったものです。

長谷川委員： 火災とかいろいろありましたが、膨大な数の部品があるので、大変なのはわかりますが、十分な注意をしていただきたいのです。たとえば締め付けトルクの範囲内にじみがあったのなら、範囲を見

直す必要もあるわけで、下請けへの周知徹底についても配慮願います。これは努力するというだけでなく、具体的な改善策を示していただきたいのです。実際、重大な事故は起きてはいませんが、先ほど指標線量率で総合的判断という言い方をした部分で、これらが信用されるためにも、また県民へ安心感を与えるためにも、きちんとした対策をとって欲しいと思います。

東北電力： 今後作業エリアへの電力社員の事前立ち会いなど、十分検討してまいります。締め付けトルクについては高めに設定する方向で対応します。

木村委員： 立地町としましていろいろ申し入れを行い、対応していただきましたが、火災の際、通報の遅れが問題となりました。それで通報訓練を実施したわけですが、この反省会をぜひやっていただきたいのです。これによって、周辺自治体の対応体制など、改善点も見えてくると思います。それから、電力の社員の方は技術的な視点で見ていると思いますが、住民には理解できないレベルもありますので、住民目線に立った情報提供をお願いします。技術的には問題なくても、住民には不安材料であることを理解してください。

高橋委員： 通報訓練は2回実施しております。現在、通報体制の見直しとして、一斉FAXの設置、通報システムの構築などを整備中です。これが整った後、もう一度通報訓練を行いまして、その後に反省会を開く予定です。

議長： 他に御質問がなければ報告事項の「ロ」浜岡原子力発電所1号機の事故について説明願います

ロ 中部電力浜岡原子力発電所1号機の事故について

(東北電力(株)から中部電力浜岡原子力発電所1号機の事故について説明)

議長： ありがとうございます。何か御質問がございましたらよろしく願いいたします。

岩崎委員： 浜岡1号機は女川1号機と同じ構造です。女川でも対策をとると思いますが、このような事故が起きないように慎重に対応してください。

東北電力： これから中部電力の報告に対する国の対応方針が出されるはずですので、これらをふまえ、対応を検討します。対応策ができましたら報告いたします。

議長：他に御質問がなければ報告事項の「ハ」宮城県原子力防災対策センター運用開始について説明願います

ハ 宮城県原子力防災対策センター運用開始について

(事務局から宮城県原子力防災対策センター運用開始について説明)

議長：ありがとうございました。何か御質問がございましたらよろしく願いいたします。なければ報告事項の「ニ」環境放射線監視システムの概要について説明願います

ニ 環境放射線監視システムの概要について

(環境放射線監視システムの概要事務局からについて説明)

議長：ありがとうございました。何か御質問がございましたらよろしく願いいたします。なければ報告事項を終了といたします。次に、事務局の方から何かありますか。

事務局：それでは、次回の技術会の開催日を、この場で決めさせていただきたいと思いますが、3か月後の平成14年8月9日の金曜日、女川町の原子力防災対策センターで開催とさせていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

議長：それでは次回の技術会について、8月9日の金曜日、原子力防災対策センターで開催することよろしいでしょうか。

(異議なし)

議長：それでは、次回の技術会は平成14年8月9日の金曜日に原子力防災対策センターで開催しますので、よろしくお願い致します。

議長：その他、何かご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

議長：他になければ、これで本日の議事が終了いたしましたので、議長の職を解かせていただきます。

6 閉 会

司会： 以上をもちまして、第86回女川原子力発電所環境調査測定技術会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。